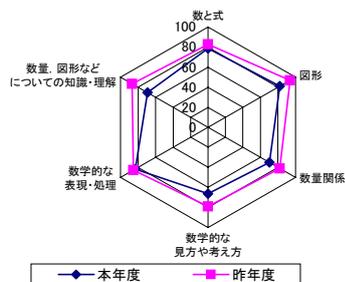


# 宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】領域別／観点別正答率

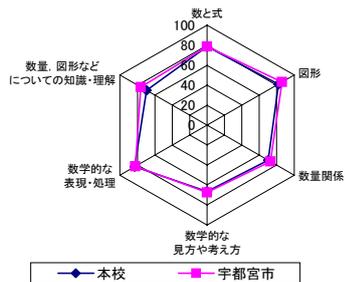
## ★本校の本年度と昨年度の状況

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	数と式	78.5	82.9
	図形	81.9	93.6
	数量関係	70.1	82.3
観点別	数学的な見方や考え方	66.4	79.0
	数学的な表現・処理	83.0	85.4
	数量、図形などについての知識・理解	69.3	86.8



## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	78.5	78.6
	図形	81.9	86.1
	数量関係	70.1	72.4
観点別	数学的な見方や考え方	66.4	67.3
	数学的な表現・処理	83.0	82.2
	数量、図形などについての知識・理解	69.3	76.0



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (78.5%)	全般的に宇都宮市の平均正答率とほぼ同じで、平均正答率80%を上回っている問題がほとんどで、おおむね理解している。平方根が整数となる値や平方根の大小に関する問題の平均正答率が65%前後とやや低い。2次方程式の利用に関する問題の平均正答率は56.9%と最も低く、理解が不十分である。	ルートは新しい数を表す記号であり、これを用いると十分に表し得ない数を簡潔に表現することができる訳であるが、第1学年における文字と同様、慎重に扱っていく必要がある。平方根を用いて表したり処理したりすることを通して、事象についての考察を深められるようにすることが大切である。
図形 (81.9%)	領域の平均正答率は80%を超えており、他の領域の平均正答率よりも高い。三角形の相似条件に関する問題の平均正答率は75.9%とやや低い。	三角形の相似条件に関する問題を繰り返し授業で扱っていくことで、さらに学習内容の定着を図っていくことに重点をおく必要がある。
数量関係 (70.1%)	2乗に比例する関数のグラフに関する問題の平均正答率が89.7%と高く、よく理解している。変域に関する問題や変化の割合に関する問題の平均正答率は60%前後と低い。	関数的な見方・考え方が苦手な生徒が1年時より見られるため、2年時や3年時においても、比例反比例の領域から反復しながら系統的に授業で取り扱うことに重点をおく必要がある。特に、変域や変化の割合、文章題などの問題を丁寧に取り扱い、十分な理解を促す必要がある。